

未来をひらく

竜爪山 九条の会

りゅうそうざん
きゅうじょうのかい

会報 2012年11月発行 通巻25号
発行 / 竜爪山九条の会・事務局
〒420-0812 静岡市葵区古庄3-19-34 五井卓方
TEL・Fax 054-264-4918
E-mail ryusouzan9@plala.or.jp
URL <http://www3.plala.or.jp/ryusouzan9/>

改憲の危険な動き

〜〜 九条の会の活動強化を 〜〜 栗田 寛 (沓谷)

自民党新総裁に改憲論者の安倍晋三氏が選出され、国政に憲法改正を掲げる橋下「維新の会」と石原慎太郎前東京都知事が同一会派をつくって進出しようとしているもとで、憲法改悪への危険が強まっています。

その一つが集団的自衛権(日本が攻撃されていなくてもアメリカと一緒に海外で戦争することができる)の行使へむけた解釈改憲の動きです。この動きは、民主、自民、維新の会なども言い出している上に、この5月の日米首脳会談での共同声明で、「日米の動的防衛協力」を初めて、うたい出している点からも極めて危険な動きだといえます。並行して明文改憲の動きも露骨になってきています。自民党は憲法九条を改めて自衛隊を「国防軍」とすることなどを打ち出した憲法改正草案を発表していますし「維新の会」は、改憲発議の要件をゆるめることと、憲法九条の是非を問う国民投票実施を打ち出しています。

来る12月の総選挙で改憲派の諸政党の議席増を食い止めると共に憲法改悪に反対する共同のたたかいを大きく発展させるために、今「九条の会」の活動を強めることが求められています。



国際環境NGO・グリーンピースの選挙啓発ポスター

九条の会東海ブロック交流集会に参加

改憲の動きに注意を！

三輪 矩正 (東瀬名)

9月16日名古屋市で、東海4県各地の九条の会から280人が参加し、「東海ブロック交流集会」が開かれました。静岡県からは6名という少人数でしたが、竜爪山九条の会から私が参加してきました。

午前中は、九条の会から渡辺治・一橋大学名誉教授が「改憲情勢と九条運動」と題して講演を行ないました。渡辺治先生は、講演の冒頭、今の政治の動きから今度の選挙のあと、改憲へ向けて大きく動いてくることに注視するよう呼びかけました。

2006年に始まった九条の会の運動が、わずか5年で全国各地に7500の組織が生まれ、憲法を守る大運動が起こった。この動きに押されて当時の民主党は改憲反対の立場に立つようになった。そして新自由主義改革への反対運動と合流し、自民党政権を倒すまでに至った。ところがその民主党が変質してしまった。なりを潜めていた改憲勢力にとっては願ってもないチャンスがやってきたというわけです。

渡辺先生は、そこらの動きを歴史も含め詳しく分析したあと、保守二大政党から、「維新の会」も絡み大連立政治へ向かおうとしているが、その目指す先は、消費税引き上げと社会保障構造改革、TPP、原発再稼働、日米同盟の危険な強化、そして、改憲へ。

それに対していかにたたかうか？ということ、

悪政に対しそれに終止符を打つ、幅広い人たちとの国民大連合を！

周りの人にわかりやすく訴える工夫を！

憲法の生きる社会を作ろう。憲法25条・26条を活かす活動と、

話されました。

午後は4つの分科会に分かれ討論が行われました。経験交流の場はありませんでしたが、東海4県の各地で、元気に地道な活動を進めている九条の会の皆さんの姿にふれ、あらためて九条を守る運動のすばらしさを感じてきました。

2012年9月16日
「九条の会をどう発展させるか」
をテーマにした第3分科会の会場(名古屋市中区・東別院会館)



この夏に読んだ本

長谷川 宏蔵 (南沼上)



約20分で50ミリレム¹のアラーム・メーターが“パンク”した。その高い線量の部署でバルブ取替え作業をした2人が10分経っても出てこない。心配した仲間の一人が呼びに入った。そこで初めてアラームメーターが故障していることがわかった。労働者のポケットの線量は1月の「許容量」100ミリレムを越えてしまっている。しかし、彼は「100ミリレム以上の値を

書いたら始末書を取られちゃう、面倒だから『85』と報告したよ。」もう一人も彼と同じ値を報告したという。

堀江邦夫(著)『原発ジプシー』(現代書館)より引用

これは約2年間、美浜、福島、敦賀と3つの原発で下請け労働者として働いた人の記録である。原発協力会社労働者の過酷な、とても想像できないような実態が描かれている。

堀江氏は本の中で「原発があるところでは、電力会社社員の姿はほとんど見たたことがない。ほとんどが‘協力会社’の下請け労働者である。」と述べ、原発作業に伴う被爆量の推移をグラフで紹介している。1980年代から、再び被爆する線量が増え始め、今(2008年)は電力会社社員の被爆量が全体の3%程度。残り97%は身分不安定な下請け労働者が浴びている。氏が働いていた30年前と変わっていない、いや、かえって悪くなったと告発している。

本の中で朝日新聞社の著名な記者の一文²を紹介している。

(原子炉の格納容器等について)死の灰は、このように、念入りに、厳しく閉じ込められている。こういう仕組みを「多重防護」という。...略...これほど徹底した安全対策が、他の産業や、人間の命をあずかる病院で、果たしてとられているだろうか。

毎日、生命を危険に晒して働いている堀江氏にとって大熊氏の文章は「なんと白々しい」「現実と違う」と思ったのだろう、「どうやら、「念入りに厳しく閉じ込められている」のは“死の灰”ではなく、むしろ、電力会社のずさんな「放射線管理(安全対策)の実態のようだ。」と皮肉っている。

今まで大新聞は「安全神話」の世論作りの大きな役割を果たしてきた。大新聞だから、みんながそういうからとそのまま受け入れるのではなく、わたしたちはしっかり物事を見る目を養いたい。

1 レムは現在あまり使われない放射線の線量当量単位。

1ミリレムは10マイクロシーベルト。100レムは1シーベルト。

2 『核燃料 探査から廃棄物処理まで』大熊 由紀子(著) 朝日新聞社

京都センチメンタルジャーニー

片野 修治 (瀬名1丁目)



あっ駄目だ。京都で言うところの「もうあかん」。

所は京都八坂神社。見上げる石段そのボリューム、更にその彼方、天空の階段。視野に入るや間髪入れず完全に戦意喪失。それを見た女房殿、「私達だけで行くから、あんたはあそこで待ってて」と指差す土産物屋。普段なら「なにお！」とくるところだが今日ばかりはやさしい天使のささやき、ありがたくお言葉いただきました。

さて、この顛末の前段。

昨日の朝、京都駅に44年振りに降り立ち、まず渡月橋を群衆に押され戻され渡り、静寂なるべき京の竹林を御仏の教えを破る善男善女。次に向かうはトロッコで紅葉の保津川を下に見つつ、終点の亀岡へ。JR山陰線と都大路の市バスへと乗り継ぎ、成金・足利義満造営のキンキラキンの金閣寺へ。案内人の義満への阿諛まじりの御託を聞き苦笑しつつ、「そもなんぞや足利家歴代将軍の施政の粗末さ、戦乱と疫病に苦しむ庶民をよそに贅沢と栄華、酷税と逃散の200年」、夕日に輝く金閣寺を見ながら足利家に絶望し致仕した北条早雲の関東での領民慰撫の民政をうち立てたあの時代にもかかわらず、偉大さに思い至る俺って変わり者？ますます厳しく迫る寺の起伏に悪い予感。更にタクシーで44年前にドロップアウトした衣笠の立命館大学へ。大学の入り口で守衛さんに、「44年前の学生です。どうか入れて下さい。」ヒラヒラと落ちるイチョウの葉を胸のポケットに。ああ！44年の歳月の残酷さ。孔子もビックリ、あのまばゆいばかりに光り輝く20歳の青年から白髪、猫背でショボショボ歩く老人への仮面ライダー、へ・ん・し・い・ん！

夜は清水寺のライトアップだとよ。無数のアリの大群、バスを止め、タクシーを止め、微動だにしないトラフィックジャム。(Traffic Jam = 交通渋滞)ひたすら歩くアリの一員。足元もおぼつかない暗闇の中、おぼつかない老人のヨロヨロ歩き。いつか聞いた旅人の行き倒れ。ライトアップも紅葉もうわのそら、「坊主よ。ライトはアップでなく足元だろーが。女房、娘の元気な事。なんだ！チミタチは！」

ようやく坂道からの解放、食事をしよう。三条、池田屋の前、なんと今は居酒屋でした。警察軍か、はてまたテロリストか、かの新撰組が斬りこみ多くの勤皇の志士達が凶刃に倒れ、この後長州藩は領国に戻り倒幕にまっしぐら。俺の足はぐらぐら。「お父さん、大丈夫。」とやさしい女房と娘。ああ！静岡帰心矢の如し。

翌日、このツアー最大のイベント“舞妓姿で祇園を歩こうツアー”が、ああ無情、雨の京都。なんか悪い事したか、天罰は全て私の足に背負い(足は背負えない)、娘は大喜びで舞妓姿で写真をバチ・ガシャ・チン。我が娘ながら綺

麗と内心に固く秘め、雨の中を秀吉の御台・ねねの創建になる高台寺へ。痛む足をなだめつつ、千利休が造ったような茶室を横目に、「実は朝鮮の百姓が使っていたありふれた茶器を、千金の価値ありと出鱈目放題。信長の寵愛を笠に着た利休に、日本の本の価値を決めるのは俺だ、とばかり切腹を命じた秀吉。」エピソードをひとくさり女房に開陳、その話を聞いた観光客が感心ひとしきりだとさ。ここでひらめき。

高台寺 吾の御足は 交替時

(こうだいじ われのみあしは こうたいじ)

ファミリーは吾の足を気づかい喫茶店へ。疲れた体は煙が癒す。さて一服。すかさず娘がケータイでパチリ。コーデロイのジャケットとGパンの年齢を超越したファッション。座って足を組み煙草をすっている姿なんざ、歩く姿が墓場だけにかっこいいロマンスグレー...、と思いたい。しかし、ホントそう、歩く姿は病める口バ。

昭和44年、今は共産党の国対委員長となった穀田恵二代議士と立命からデモで歩いた思い出の地、円山公園。当方、共産党とは縁がないが、おかあさん、あれは何のデモだったんだろう。むこうは有名国会議員、当方は病める口バ、人生はこれだから油断できないぞ、おのおの方(大石内蔵助調)。むこうが国会議員なら、オラは、オラは、とうほぐべんで英語の歌、唄うゾ、ドーダ!

と、ここまで来て冒頭の八坂の石段。

「えッ、まだ行くのぉ」痛む足を引きずり家族に引きずられ、更に青蓮院へ。又々入り口でギブアップ。ボンヤリと見渡す観光客、中国人あり老人グループあり、ワイワイ、キャーキャー、シェーシェー。しかし何故、皆こうも元気なんだあ、こいつら不倫グループだなど、我が身の情けなさからのきめつけの逆うらみ。しかし、ニッポンのおばさん達の元気さには、墓の中の太閤さんも脱帽してる野田。

ようやく拷問歩行から解放され地下鉄で京都駅へ。見上げる駅の吹き抜けドーム、なんと11階分。やれやれ一瞬の安堵もつかのま、好奇心旺盛の娘のひと言、「登ろう」。なんという非情な娘、我はそんな娘に育てた覚えはない!と、心の中で小さく叫びましたとさ。音を立てて警鐘を鳴らし始めた我が膝を無視し、流れる涙をそっとふき、なにげなさを装い、登る、登る、ひたすら登る。

その翌日の今、思い出す度に疲れが嘔吐の如くこみ上げ、もはやこれ以上ペンを取る気力もこれなし。一日ヨボ老人で家の中にへたれこんでいた我。

明日は青空が見れるかしら。



“舞妓姿で祇園を歩こうツアー”
舞妓姿の娘、着付けに1時間、
撮影に30分かかりました。

日本近現代史の学習会

宮 秀雄 (古庄)

2年前より拙宅で日本近現代史の勉強会、学習会というよりむしろ読書会を開いています。私の妻の友人たちから是非勉強したい、と提案、希望があり私がそれに乗ってしまったというのが始めるきっかけです。

勉強するとは言ってもテキストがあった方が良くということで、ちょうど憲法記念日の講演会で販売していた『日本近現代史を読む』を使用

して、月1回ののんびりペースで徳川幕藩体制から、時には別刷り資料プリントも使用。今回はポツダム宣言まで。いよいよ「原爆投下と日本の敗戦」へと入ります。8~10人くらいの少人数ですが、会終了後は、有志での飲み会に変化。活発な会話が弾みます。。

我々の共通の問題意識としては

- 1 なぜ日本はあんな無謀な侵略戦争を始めたのか？
- 2 どうして途中で止められなかったのか？
- 3 天皇の戦争責任は？
- 4 ドイツと日本の敗戦や戦争責任の取り方取らせ方、つまり戦後責任の比較、違いは？
- 5 世界史と日本史との関連は？

等々、次々と興味関心は広がって行きます。日本史だけでもこれからあと1年(戦後史になりますが)はかかるゆっくりペース。日本史だけ見ていては全体像はわからない。ですからこの後は世界の近現代史をやろうなんてことになる、あと何年かかるか分かりません。

「人類の歴史は愚行の歴史でもある」とか「戦争は発明の母」あるいは「歴史に無知な者は現在に盲目となる」「歴史は現在と過去との対話である」等等、歴史をあらわす格言はたくさんあります。

現在の日本の政治、社会、経済状況を見るにつけ過去の過ちの歴史から謙虚に学ぶことが今こそ必要だと痛感します。例えば安倍自民党総裁の言う「財政規律」無視の財政金融政策は、かつてのドイツの超インフレの歴史からなんら学んでいない暴論です。

権力は民衆を騙す。次はどういう騙しのテクニック、スローガンでゆくか？彼らは策を練っている。財界、権力側には「騙しの専門家」がいる。二度と騙されないためにもこれからも歴史の読書会を続けてゆこうと思います。ただ残念なのは若い世代が一人もいない事です。若い世代にこそ過去の歴史から学んでほしいものです。

『日本近現代史を読む』 宮地正人監修 新日本出版社

私の好きな時

猫の額ほどもない庭のガーデニング

大坪 美恵子 (千代田)

夏の暑い盛りは8時をメドに花殻をとったり、鉢をあっちにやったり、こっちに移したりの様様替えをし、水をやるのが日課だ。

メインの7つのプランターに冬はノースポール、夏は去年から白のインパチェンスにした。今までいろいろな花を試してみたが、みんなひと夏を持ちこたえられず、夏の途中で植え替えをしなくてはならなかった。インパチェンスにしたのが正解だった。今年のうだるような暑さでも「平気のへいざ」だ。次々と白い花をつけ、11月になっても目を楽しませてくれている。春先から初夏にかけては蜂や蝶がきて軽やかな舞を見せてくれる。招かざる客、バッタの大群がシソの葉や、ホテイアオイなどやわらかな草花をほしいままに食べ丸坊主にしてしまうが、バッタとも共生しながら庭づくりを楽しんでいる。今年のこの暑さがカナブンの幼虫を異常発生させ、10年以上も私の目を楽しませてくれた、たおやかな風知草が一晩で根本を切られ犠牲になった。

冬、室内でたくさんの花をつけてくれたシクラメンを外に出し木陰に置いたら、8月だというのに白い花をつけた。数年前のこぼれ種から、ポーチュラカやスイートアリッサム、日日草が花をつけたり、思いがけない発見もある。

さて今年の秋は、寒い冬はどんな花を植えようか想像をめぐらすのもガーデニングの楽しみの一つだ。



オスプレイで思うこと

山下 亮一 (瀬名7丁目)

我が家は、静岡ヘリポートに近い場所にあるため、最近増えた発着での音が気になり始めた。加えて、軍用ヘリの往来も増えた上に、高度が低いためか、あの重量感のある不気味な音には恐怖さえ感じる。オスプレイの音は、約20倍というから、沖縄の皆さんの腹立たしさは、いかばかりかと思う。御殿場への配備について、川勝知事が、暴挙と発言し、防衛省が前以て6回説明してあると応戦したが、配備だと認識されないような内容でも、説明したのだから、配備に文句を言うなとも取れる言い方で、住民無視も甚だしい。

よく政治家などが口にして、納得させようとする文言に「沖縄の痛みを分けあうためにも」「苦しみを共有するためにも」があるが、基地やオスプレイを痛みと認めているなら、拡散でなく無くすべきだろう。喜びは分かち合うものだが、痛みは無くすものだし、苦しみは共有でなく、互いに助け合い、消し去るのが人としての道だと思うし、そう信じている。



狩りの名人ミサゴは、はるか上空からダイビングして水中の魚を捕まえる。

ナショナル ジオグラフィックのサイトより写真転載

オスプレイは垂直離着陸輸送機「V-22」の愛称。ワシやタカの仲間であるミサゴという鳥の英名・Osprey。

編集後記

もう師走。今年も「いわさきちひろカレンダー」を販売します。1部1400円です。売上は貴重な活動資金とさせていただきます。ありがとうございます。

一本の鉛筆があれば
私はあなたへの愛を書く
一本の鉛筆があれば
戦争はいやだと私は書く

美空ひばりさんが唄った『一本の鉛筆』。
松山善三さんの歌詞にあるように、「戦争はいやだ」と言い続けていかなくは、なにかとんでもない世の中になつてしまいそう。戦争をしない、とうたつた憲法九条がなくならないよう、私たちの会で何ができるか、何をすべきか、みなさまの声をお寄せください。
前号より会報が一回り大きくなりました。せっかく誌面が大きくなったのに、文字が小さくてすみません。 寺井